

会 議 名	所信表明演説会（議長選挙）		テーブル番号
			—
開会年月日	令和3年5月12日	開会時刻	午前10時56分
		閉会時刻	午前11時46分
議員 出席名 委員	選考委員会委員長 田立 恵子、選考委員会副委員長 村田 雅利、 議員 池辺 貢三、議員 大塚 英一、議員 貫野幸治郎、 議員 高橋 登、議員 谷野 司、議員 中谷 昭、 議員 中村与志子、議員 野田 悦子、議員 林 哲二、 議員 堀口 陽一、議員 丸谷正八郎、議員 溝口 浩、 議員 村岡 均、議員 森下 巖		
議員 欠席名 委員			
理事者側出席者			
案 件	1. 中村議員による所信表明演説 2. 丸谷議員による所信表明演説		

(午前10時56分 開会)

○**田立選考委員会委員長** それでは、ただいまから、議長選挙に係る所信表明演説会を開会いたします。

私、泉大津市議会役員選考委員長の田立恵子でございます。正副議長選挙に係る所信表明演説会の進行を務めさせていただきます。

まず、所信を表明する順番は届け出順により中村議員、丸谷議員の順でお願いいたします。

それでは中村議員、所信表明をお願いいたします。中村議員。

(中村議員登壇)

○**中村議員** 4番、中村与志子です。初めに、市民の皆様、職員の皆様、医療や福祉に従事する皆様におかれましては、コロナ感染症による3回目の緊急事態宣言のさなか、様々なご不便、困難な状況にあることに心よりお見舞い申し上げます。市民の命、財産を守るため、特に子供たちの教育の機会が奪われることのないよう、泉大津市議会議員としてできることに尽力いたします。また、残念ながらコロナウイルスに罹患され、亡くなられた方々にご冥福をお祈りするとともに、療養されている多くの方々には1日も早いご回復をお祈りいたします。

では、選考委員会委員長のお許しを得て、議長選挙立候補の所信と抱負を述べさせていただきます。

本市議会は2016年に議会基本条例を制定しております。その前文には1、市民のための市民に分かりやすい、市民に開かれた議会、2、二元代表制の役割と機能向上を図る議会、3、市民が政治に関心を持ち、新たに政治に参加、挑戦したいと思える議会、この3本柱を掲げており、基本理念として、二元代表制に基づく議会の機能強化を図るために、情報を公開し、市民参画を原則に、絶えず議会の在り方を検証し、改革に努めるものとして記されております。この議会基本条例は制定から7年、様々な改革がされ、私の会派である、会派に属さない議員連合からも、いくつかの申入れを議長に行っていました。その中でも会派に属さない議員であっても、予算、決算審査特別委員会のいずれかに出席できるようになった改善は、議会基本条例の3本柱を大きく前進させたと言っても過言ではないと思っております。しかしながら、2021年の今、社会情勢は大きくさま変わりし、さらなる議会改革、市民の政治参画をスピーディーに進めていく必要があると考えます。そのことから私は議長となって泉大津市議会を市民との信頼関係を高め、未来につながる議会改革をさらに早期に実現していきたいと3つのことを提案させていただきます。

- 1、一般質問、委員会等質疑において、市民に分かりやすい一問一答の実現。
- 2、会派に関わらず、全ての議員に公平平等な時間配分の実現。
- 3、議員への行政情報の積極的な公開。

以上の3点です。まず、1つ目の質疑において、市民に分かりやすい一問一答についてです。現在、本市議会の一問一答方式は、複数の質問を初めにまとめて質問し、全ての質問の答弁があってから、1問目の質問の再質問から一問一答となります。これは多くの質問の答弁が入り混じり、何の質疑応答しているのか分かりにくいと市民の方からよく指摘されます。他の多くの議会では、一問一答方式とは、その言葉どおり、一問一答で1つの質疑を終えてから次の質問が始まります。この方法のほうが誤解が生じにくく、初めて聞く人にも分かり

やすいのではないのでしょうか。市民の理解しやすい質疑にするためにも、早急に市民に分かりやすい一問一答方式に変更する必要があると考えます。

2つ目は、会派に関わらず、全ての議員に公平平等な質問時間配分の実現についてです。現在、会派に属さない議員は、一般質問において発言時間が短い状態です。全ての市議会議員は、トップ当選であっても、最下位当選であっても、市民に負託された議員です。議員の発言時間はいかなる場合でも公平平等であるべきではないのでしょうか。一般質問の日数は予備日を入れて3日間あり、十分に質疑の時間があります。発言時間を公平平等に設定することで全ての議員が市民の思いを十分に代弁できるとともに、新たに議会に挑戦したいと思われる方が、政党や会派に所属しなくても市民の代弁者となることのできる大きな門戸を開く機会になるとも考えております。

3つ目は、議員への行政情報の積極的な公開についてです。議会基本条例には、二元代表制の一翼を担う議会は、市長を初めとする執行機関に対し、対等に議論し、議会と行政が緊張感を維持できるよう、市民の立場に立ち、市民の声を集約し、政策立案能力や判断力の向上を図り、機能強化することが必要であると前文でうたっております。これらを実行していくには、まずは当たり前の情報公開が必要です。現在、泉大津市の市長を初めとする執行機関の情報公開は、隣接する和泉市や大阪府内の他市の情報公開と比較した場合、議会や市民に公開するべきものが公開されていないことが多く見受けられます。特に現在進められている新病院建設においても、多くの市民の方から情報公開が不十分だとたくさんのご指摘をいただきます。約20億円の建設費増額を1人の議員の質疑応答の中で明らかにし、質問がなければ伝えないというような本市の姿勢は、市民の理解を得られるものではなく、情報公開の在り方において、明らかな議会軽視であると思われるのではないのでしょうか。私はこの点においても情報公開の内容の定義について、議会の皆様と議論し、議会基本条例第1条にあります、議会がその機能を高め、市民福祉の向上及び市政の発展に寄与することを早急に進めたいと考えます。

私は2年前4,151票でトップ当選を果たさせていただきました。選挙期間中も女性議員の活躍が期待されていることを実感いたしました。今回の立候補に当たり、本市議会の歴史を遡れば、本市議会において女性の議長がいまだかつて誕生していないことを知りました。そして女性といえば国においては2016年女性活躍推進法が施行され、少子化の影響による、労働人口の減少からこれからもっと経済、産業の分野でも女性に活躍してもらわなければ、日本は衰退の一途をたどるとし、女性の継続就労の困難さの是正として2018年男女雇用機会均等法の改正、また国際比較における女性管理職割合の低さを是正するため、指導的地位に占める女性の割合を2020年まで30%とする目標を掲げられました。

○**田立選考委員会委員長** 時間が来ておりますのでまとめてください。

○**中村議員** ぜひ私中村与志子を議長としてご推挙いただけますようよろしくお願い申し上げます。

○**田立選考委員会委員長** 以上で中村議員の所信表明は終わりました。

これから中村議員に対する質疑に入ります。この際申し上げます。所信に対する質疑は個人の誹謗中傷、名誉棄損に当たらないようお願いいたします。それでは、質疑はありませんか。森下議員。

- 森下議員** 今、所信表明をお聞かせいただいたんですけれども、その中で少し触れられていなかったことについてお聞きをしたいと思います。市議会は市民の代表機関でありますし、議会の役割を一層果たすためには、市民の声をどう取り上げ、反映させていくのか。このことが非常に重要だと思っています。先ほど退任された議長さんの話もありましたけれども、初めて市民アンケートという形での取組を行ったわけですけれども、それをどう生かしていくのかということについてはまだこれからの課題だと思っておりますので、この辺りの市民参加、住民参加、市民協働、そしてこの市民アンケートをどう生かしていくのか、この点についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。
- 中村議員** 森下議員のご質問に答弁いたします。今、アンケート調査、今まで取ってきました。やはり、まず基本条例の中にもたくさん書かれております、これをしっかりと一つ一つこなしていくということで、十分に市民の声を集約することができると思っておりますので、それをさらに皆様とアンケート調査については、その回答を今後議論していくということになっておりますので、それを年何回と会議体をしっかりと決め前に進めていきたいと思っております。
- 森下議員** ありがとうございます。この1年以上コロナ禍の中で、議会傍聴の呼びかけ、その中で議会の予定もお知らせをしながら対話活動も本市議会としては進んでやってきたところですが、そのこともこの間完全にできない状況になっております。ですから、市民アンケート等生かしながら、しかもそのコロナの感染状況の中でどう市民の声を取り上げていくのか、あるいは住民参加、市民参加をつくっていくのかということが非常に大きな課題だと思っておりますので、もう少しその点についての具体の考え方ございましたら教えていただけますか。
- 中村議員** 市民とのこれからの意見集約についてですが、今ご存じのとおり議会改革の中で、ホームページの在り方、市民の声を、ICTを活用しながら集約していくという議論がこれから、今年度、令和3年度始めようとしております。ですからそれをしっかりと前に進め、議会改革、議会運営委員会の中でもしっかりとその内容を見極めていけるよう力を尽くしたいと思っております。
- 森下議員** ありがとうございます。ICTの活用もようやく議会としても積極的に進めていくということが本当にこれから求められてくると私も思いますし、本市議会は情報公開という点では比較的進んでいるということで、全国の議会改革のランキングでも評価がありますけれども、一方で住民参加、市民協働という点では非常にまだまだだということもございます。ランキングを決して気にするわけではありませんけれども、やはりこの二元代表制の一翼を担う議会としての市民参加、住民参加をどう進めていくのかについては非常に大事な点だと思っておりますし、ぜひその点でのご尽力をいただきたいということを申し上げて終わります。
- 田立選考委員会委員長** 他に質疑はございませんか。池辺議員。
- 池辺議員** すいません、ちょっと2点だけ確認させていただきたいんですけれども、質問時間、大きな2点目で述べられていた質問時間についてなんですけれども、これは前年度、前々年度だったかとは思いますが、申入れがあったときに議会運営委員会で諮らせていただいて、合意が諮れなかったことを今回また所信表明に述べられているんですけれども、この辺りどのように解消して、どのように進めていくのかということをご教えた

だきたい点が1点。

先ほど森下議員のほうからも市民さんからの意見、声をどうやって集約していくかという質問があったんですけども、今後議論していくということで中村候補者のほうから答弁があったんですけども、これは前年度広報広聴委員会の副委員長をされていて、市民アンケートも実際どういうふうな状況であったのかという、その市民の無作為抽出であっても、市民の直の声を聞かれているのに、これから議論していくというのは、何かその辺りの具体的な考えはないのかどうか、その辺りだけ確認させていただいてよろしいでしょうか。

○中村議員 池辺議員の質問にお答えいたします。まず1つ目は、私の提案している2つ目の会派に関わらず全ての議員に公平平等な質問時間配分の実現という部分について。昨年も申入れの中にも入れさせていただきまして、議会の中で議論していただきました。ただやはりそういったときに、これを進めていくときには、今の現状がどのようになっているのかというところが、私も議会運営委員会のメンバーでありましたので、議論の場におりました。その中で様々な議題が合わさって議論されることによって、少し議員の皆様の中にも、議論の内容が混乱している、今の現状を混乱されている状況にある方もいらっしゃるのかなということをおもいました。ですからやはり、自分がそれを提案するのであれば、しっかりとその誤解を生じるようなことのないような文章をしっかりと作成し、皆様にご説明し、そして議論をさらに尽くしていただきたいと考えます。

そして2点目ですが、市民の声ということで、広報広聴委員会副委員長もさせていただき、アンケート調査の結果見た後、さらなる議論を進めるという部分でした。私はこの市民アンケート調査を議会が実行したことは大変有意義なことだと思っております。そしてこれは1回といわず、議会ですっきりと予算化していき、さらにアンケート調査という形で進めていくのは必要なことだと思っております。そして、私が1人で議会改革をすすめる、こうすると進めるものではなく、私はあくまでも公平平等に皆様の意見を集約していくという立場に議長としてはあると思っておりますので、皆様と議論の場を設置していく、例えば議員総会の回数は増えてしまうかもしれませんが、そういった環境をさらに整備していきたいと思っております。以上です。

○池辺議員 すいません、質問時間についてのほうで、この混乱があったということを答弁で言われていたんですけども、ちょっと自分の中の記憶では、その混乱があったというのがいまいよく分からないんです。というのは、まず、一部の議員の方はもうちょっと発言時間を伸ばしてほしいというお声もあったのも確かです。ただそのほかの多くの議員は、今のままで十分やといわれる方が多かったように思うんです。その中で合意形成諮れなかったのを、どう言ったらいいんでしょう、混乱があったから合意形成が諮れなかったという認識はちょっと違うのかなと。だからあえて具体的にどういうふうに進めていくのかというところを聞いたかったんですけども。それやったら同じ提案の仕方になるのかなとちょっと聞こえてしまったんです。まあ、この件は結構です。

今後議論やっていくというところで、具体的にその辺りも教えてほしいとちょっと質問させていただいたんですけども、第1回目の市民アンケートの精査すらもまだやっていないのに、その都度アンケートをやっていくのかなというふうに今答弁の中では聞こえたんですけども、その辺りちょっと見解だけお聞かせいただけますか。

○中村議員 質問にお答えします。今会派に関わらず全ての議員に公平平等な質問時間配分の実現というところは、もう結構ですということでしたが、1つ池辺議員が誤解されたかなと思う部分を述べさせていただきますと、先ほど述べさせていただきましたように、やはり議会で市民の負託を得て、16人がこの議場におります。それは多くの人から選ばれたとかそういうものではなく、16人が市民の声をしっかりと議場で発言できる、代弁できるということにおいては、最大の時間が全ての議員に公平平等に与えられている中で、10分の質問でいいと思う方もいらっしゃるだろうし、質問しなくてもいいと思う方もいらっしゃるだろうと思います。ですから、やはり先ほど述べたように、今後議会議員になりたいと、市民の方々が、議会に挑戦したいと、参画したいと言ってくくださる方が出てきたときに、会派や政党に属することなく、全ての議員が初めて選ばれた段階から、公平平等な時間配分があることは必要ではないかという思いから、皆様にもう一度考え直していただきたい方もいらっしゃるという部分があります。やはり市民に選ばれ、市民のための議会でありますから、市民、そして私自身の話ですが、やはり私を支援してくくださる方々は、そのようにおかしいと。公平平等の観点からすれば、そういったことがまかり通らないような議会は、市民の信頼を得られるものではないと、しっかりと一石を投じてくるようにといつも言われます。ですから皆様の同意がなければなかなか前に進めることができませんので、もっと私自身がなぜこれを必要やと思うのかということ、短い言葉でいつも端的にまとめてしまいますので、なかなか思いを伝えることができているのかなということ先ほども申し上げましたように、書面などでしっかりと情報として皆様に提供できるように力を尽くしたいと思っています。

そして2点目の市民の声でのところで言いますと、もちろんアンケート調査、先ほども申し上げました、同じ答えになるんですが、アンケート調査をこれから集約していくということになっておりますので、それを踏まえて新たに次年度もどのような会合を開けるのかということ、ところを精査していきたいなと思っております。以上です。

○池辺議員 すいません、次年度はどういうふうな会合をやっているのかということですね。って言われたんですよ、今ね。じゃあもう結構です。ありがとうございます。

○田立選考委員会委員長 他に質疑はございますか。堀口議員。ごめんなさい、同一会派からはお一人ということに申し合わせでなっておりますのでご理解ください。他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○田立選考委員会委員長 ないようでありますので質疑を終わります。中村議員は自席にお戻りください。

次に、丸谷議員、所信表明をお願いいたします。丸谷議員どうぞ。

(丸谷議員登壇)

○丸谷議員 この度泉大津市議会議長選挙に立候補いたしました丸谷正八郎でございます。これより所信表明を述べさせていただきます。

私は平成15年の市議会議員選挙で初当選し、今年度で議員歴19年目に入ります。その間各委員会の委員長職を務め、平成23年度に市議会議長職を務めさせていただいております。そのときは任期1年ということで、継続した議長職を遂行することで任期が過ぎていっ

た気がいたします。しかしその間も議会改革については、議会改革検討協議会を開催し、議会改革について、意見の調整を行いながら議会傍聴よびかけ隊等の活動を実施してまいりました。その後平成26年に泉大津市議会基本条例が制定され、今はその基本条例に沿った形で議会活動が実施されています。基本条例の前文には、1、市民のために市民に分かりやすい市民に開かれた議会、2、二元代表制の役割と機能向上を図る議会、3、市民が政治に関心を持ち、新たに政治に参加、挑戦したいと思える議会の3本柱を上げています。また基本理念には二元代表制に基づく議会の機能強化を図るために、情報を公開し、市民参加を原則に、絶えず議会の在り方を検証し、改革に努めるものとなっております。現在は、議会改革検討協議会は溝口委員長を中心に各党派から選出された委員さんたちで、様々な観点から議会の活動について意見交換し、市民に開かれた議会の実現のため、様々な改革に取り組んでいただいています。また、去年は市民アンケートを実施して、多くの市民からご意見をいただきました。そして、タブレット配付から3年がたち、Wi-Fi環境の整備も完了いたしました。これからは今以上にタブレットを活用した議会運営に努めていきたいと思えます。令和元年度、令和2年度と2年間議長として議会改革に取り組まれた池辺議長の取り組みを継承しながら、コロナ禍で中止となった事業や活動については、コロナ禍でも実施できるやり方に変換していく必要があると考えます。以上の事柄を考慮して、2年間の取組について具体的に述べさせていただきます。

まず1点目、議会傍聴よびかけ隊の再開について。コロナ感染予防対策として、マスク、ビニール手袋の着用、また長時間の会話を控えるなど感染予防対策を皆さんと協議し、議会傍聴よびかけ隊のチラシ配布を再開したいと思えます。ただし、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令された場合は中止といたします。

2点目として、議会だよりのバージョンアップについて。市民アンケートで議会だよりが、市民と議会とのパイプ役となっていることが確認されました。このことを受けて、議会だよりの充実として、カラー化に取り組むたいと思えます。市の広報紙がカラー化されました。現在は市のLINEに広報紙と一緒に議会だよりを掲載していただいています。それらのことを考慮し、判断いたしました。カラー化による印刷費用が増額となるので、限られた予算の中から皆さんと協議し費用を捻出していきたいと思えます。議会だよりによる情報発信の強化に努めたいと思えます。

3点目、議会の災害時避難訓練を実施したいと思えます。定例会や委員会開催時に、大規模地震が発生したことを想定し、避難訓練を実施いたします。また議場にヘルメットの配備を行いたいと思えます。

4点目、議員、理事者の発言取消し、修正内容の確認についてであります。現在本会議や委員会などは、ネットでライブ中継されています。発言の取消し、修正をしても、議事録は訂正されますが、ライブ中継は取り消すことができません。市民に正確な情報を伝えるために、現在は議員、理事者の発言取消し、修正の場合については、発言の一部の取消し、修正の申出がありますのでこれを許可いたしますかととなっているが、今後は発言取消し、修正部分の詳細について説明し、その場で議員各位の承認を得るようにいたします。議員、理事者の責任の下、議事録とライブ放映との整合性を重視し、議会の信頼を維持していきたいと思えます。

以上4点の事項の実施と議会運営委員会や議会改革検討協議会、広報広聴委員会の意見を尊重しながら、コロナ禍において議会活動の新しい活動様式を皆さんとともに考え、実施してまいります。2年間の任期となりますが、議員皆さんのご意見をお聞きし、中立公正な立場から議会運営に徹し、市民に開かれた議会となるよう積極的に取り組んでまいります。

私1人では何もできません。議員皆さん方とともに考え、ともに活動し、ともに汗をかきたいと思っています。どうか私の所信表明にご賛同いただき、丸谷正八郎にご支持を賜りますようお願い申し上げます。泉大津市議会議長選挙の立候補に当たりましての所信表明とさせていただきます。どうか皆さんよろしくお願ひいたします。以上です。

○**田立選考委員会委員長** 以上で丸谷議員の所信表明は終わりました。

これから丸谷議員に対する質疑に入ります。質疑はございませんか。高橋議員。

○**高橋議員** 今、丸谷正八郎議長候補者のほうから、所信の表明をいただきました。

1つは、まず確かに所信表明の中で言っていたとおったんですけども、丸谷正八郎議長候補者、今回の議長の立候補は、確か平成23年度に続いて2回目の議長選挙ということになりますけれども、特に今回も前回から引き続いて任期は2年となっております。2回目の議長を担う課題、あるいは今の心境、思いですね、それについてはどのような今心境であるのかどうか。この点をまずお聞かせいただきたいと思います。

○**丸谷議員** ただいま高橋議員のほうからご質問いただきました。確かに平成23年に1度議長職を務めさせていただきました。その間はやはり1年間ということで、なかなか自分の引き続いてやっていきたいような事業がほとんどできないような形もありまして、当時議会改革検討協議会も発足してまだ2年か3年くらいだったんで、なかなか充実していなかったというのも事実でございます。そして、平成26年に基本条例ができて、議会としての活動の基本的な形ができてきたということがございます。その中で今回立候補させていただいたのは、やはり2年間議長として職務につけるということになりますので、自分の思っていることを皆さんにお話をして十分協議できる時間もできてくるんで、長期的な考えの中で議会の改革をやはり進めていくことが大事であるこのように思っています。

高橋議員もご存じのように、議会は合意形成が大事になってきます。その分やはり議会改革も少し足踏みするところはかなり多くあります。だからやはり1年ではなかなかその辺が理解していただけないということもありますので、皆さんと協議しながら、合意形成を取るにはやはり2年間必要とこのように思いまして、もう一度議長として議会改革を進めながら、市民に開かれた議会を目指していきたい、このように思っております。

○**高橋議員** ありがとうございます。丁寧にご説明をいただきました。1つは今、候補者のほうからございました、冒頭に中立公平な運営に努めるということと同時にやはり合意形成が大切であるんだということだろうと。私も当然そうやと思います。当然合意形成というのはあくまでも多数決ではないわけでありまして、そういった意味では、少数者の意見というのをどういうふうに尊重しながら合意形成を図っていくのかと、これは民主主義の大変重要な視点だと私は理解をしております。そういった意味で、丸谷候補者の政治的なスタンスにおいては、日頃から南出市長を支える政治的立場を明確にされておると思いますけれども、議会の機能として、または議会基本条例にある二元代表制として行政あるいは執行機関をチェックしていくという役割も担っておるわけでありまして。そういった意味では、議会のチェッ

ク機能についてはどのように考えられておられるのか、この点もお聞かせいただけますでしょうか。

○丸谷議員 二元代表制という形で、やはり市長も選挙で市民の負託を得て当選されてきて、議員は16名ですけれども、同じように市民の負託を得て、議場でこれから市政運営について、政策について議論をしていくという形になっています。そういった中で先ほど、高橋議員のほうから、市長に近い議員ではないかと言われましたけれども、確かに市長が市会議員のときに同会派を組んでいました。そのこともありまして、やはり共感できるところがかなり多くございます。ただし、議長になった限りは、先ほど所信表明でも述べましたように、中立公正な立場から、議会を代表して、これからやはりきちっとものを言うときは、ものを言っていきたいこのように思っています。そして二元代表制という形で、市長はやはり執行機関で執行権を持っています。条例を作ったり、予算案を出してきますんで、それを議場または委員会で皆さん方と一緒に審議して、そして採決をして、そして議会としての判断を出していっているという形になっています。議会はそういう形での議決機関であるところのようには思っていますので、偏った個人的な考えで議長ができるわけではございません。皆さん方のご意見を聴きながら、最終的には議場で議論し、そして審議して、そして採決して決定していくと。今までと一緒に、現在もやはり行政のチェック機関として、泉大津市議会の議会はきちっとやっていると、私はこのように思っていますので、それを引き継いでやっていく、そういう覚悟でございます。

○高橋議員 特に議会の役割、機能というのはますます私は重要になってきておると思います。今回あえて2回目に立候補をしていただいたわけでありまして。特に丸谷候補者、昨年、一昨年と議会の三役ポストである議会選出の監査委員も務められておりまして、そういった意味では、主要ポストを担われてきたわけでありまして。多数に支持されたということであればそれまでであります。そういった意味ではそのことを否定するつもりはさらさらないわけでありましてけれども、もっと言えば議会の中で、先ほど少なくとも19年、ベテラン議員の1人になっております。そういった意味では役職、主要ポストを担っていくという部分では、少数意見、あるいは少ない部分に対してどう配慮していくのかということについて、改めてちょっと思いを願いたいと思います。

○丸谷議員 先ほどから引き続き同じ答弁になると思いますけれども、議員さん16名おられるので、少数意見だろうが多数意見だろうが、それをやはり拾い集めていく必要があります。ただ、最終的に判断せなアカんとなったときには、やはり採決していくしかないんです。いくらやっても平行線、合意形成が取れない、またそういうときには、一定の判断も必要かなと思います。ただしできるだけ、皆さん方と協議して、協力していただいて、進めていかないと、政治的なことは別として、議会改革については、一定の皆さん方のご理解とある程度は妥協しながら進めていかないと、この改革はなかなか進まないと思いますので、市民の目線に立って、もう一度立ち止まって考えるときが来たら、皆さん方の判断をいただいて、方向を示していきたいこのように思っています。

○高橋議員 もう意見だけにとどめますけれども、少なくとも多数で強引に運営をするようなことだけは避けていただきたいと思っておりますし、少数意見について十分に議論を重ねていくことに1つ配慮をお願いして質問を終わります。

○田立選考委員会委員長 他に質疑はございますか。堀口議員。

○堀口議員 立志会を代表して質問させていただきます。私自身は女性議長の誕生については期待をしているところです。またこの理事者席にも今回4名の女性の方々が入っていただきまして、今後も図書館の建設、またコロナ対策等でしっかりと指揮を執っていただきたいと思います。そして、議会はやはり丸谷議員がおっしゃったように情報発信が重要だと思っております。ただ、私自身も1議員のSNSで、私そして家族も傷ついております。こういったSNSの議員の活用の仕方、この部分について考え方をお聞かせください。

○丸谷議員 今SNSについていろんな形で規制されているところもございますけれども、なかなか議員個人の判断でやられていることでもありますし、議会がどこまでチェックをできるかといったら難しいところもございますので、それはやはり議員個々の自覚のもとお互いの相互関係を考えながら、あまりにも相手方に負担にならないような形で発信をしていただきたいと。極端にあまりにも名誉棄損までなってくると、個人同士での考えとなってきますので、その辺の仲裁についてはこれからも入っていきたいと思いますので、特にSNSはもう載せてしまえば全体的に広がっていきますので、そういうことも踏まえて各議員についてもきちっとその辺のマナーを守りながらやっていただきたいとこのことはお願いするしかないかなと思っていますので、その辺ご理解のほどよろしく申し上げます。

○堀口議員 私自身は情報発信の重要性については十分熟知しております。今後情報発信についてはしっかりやっていくべきと思うんですが、それについて丸谷議員の考え方をお示してください。

○丸谷議員 先ほども所信表明で述べましたとおり、なかなかSNSいっても高齢者とかそういう方には届かないというところもございますので、今議会だよりを市のLINEのほうで一緒に載せていただいて、それはそれで若い人が見ていただけると思うんですけれども、やはり議会だよりをもう少し充実して、高齢者にとっても見やすい、そして楽しい議会だよりにしていかなあかと、私思います。その辺も踏まえてこの5月から市の広報紙がカラー化してやはり見やすいという感じになります。その辺も踏まえて議会のほうもそういう形でもう一度バージョンアップしながら、できるだけ市民に議会の声が届いて、その議会だよりの中からいろんな意見を聴けるようなシステムをうまくつくれば、市民の声がもう少し聴こえるかなと思います。それとずっとコロナの影響もあって、いろんな判断の中で、傍聴よびかけ隊がちょっと中止になっていたんで、コロナが終息するまでといったら、終息するという判断が難しいんで、ある程度は防御しながら、コロナ禍にあったそういうやり方を皆さんと話しながら、人数を分散するとかちょっといろんなやり方を変えて、やっぱりそれをやることによって、情報発信と市民の声も、今こそやるべきだと思います。コロナに対する不安もありますし、市民の声を直接聞く機会にもなりますので、そういったことをもう一度見直してコロナ禍でもできる活動様式、泉大津市議会のそういう形を作り上げたいと思いますので、そういったところで情報発信したいと思います。

○田立選考委員会委員長 よろしいですか。他に質疑はございますか。森下議員。

○森下議員 先ほどの中村議員候補と同様の質問となりますけれども、情報公開のことについては先ほども言いましたけれども、比較的本市議会は頑張って進んできたということではありますが、なかなか住民参加、市民協働という点ではまだまだということで、議会傍聴よびか

け隊については再開をしていくというお考えをお示しされましたけれども、それ以外にこの取組み等についてのお考えがあるのかというのと、せっかく取り組んだ市民アンケート、これをどう今後生かしていくのかというこの点についてお示しをください。

○丸谷議員 先ほどお話ししたとおり、なかなか市民参画というのが、議会の呼びかけに反応が少ないというのが、コロナ前からもそうでしたけれども、意見交換会しても、同じような団体が続けて来たりという形にもなっております。そういったところもう一遍ちょっと考え直して、意見交換会も先ほど池辺議長が言ったように、Z o o mでの開催も考えたんですけども、なかなかうまくいかなかったというところもございまして、その辺をどうしていくかというのを始めて、そして議場のコンサートとかやって、議会にやはり皆さんの気持ちが少しでも寄り添えるような形になればと思って、それも再開したいんですけども、ちょっとコロナでできなかったというのもありますんで、その辺で今言ったようにコロナ禍の中で、こういう形やったらできるものがないかというのを、もう一度皆さんと協議して話していきたいとこのように思っています。ただいまちょっと言われてもなかなか判断しにくいところもございまして、そういった判断についても今回2年間の任期というのがありますので、その中でそういった形のものを作り上げて、今後そういう展開ができるというのをやはり備えていきたいとこのように思っていますので、ちょっと答えになっているか分かりませんが、けれどもちょっと今のところそういう形で考えております。

○森下議員 ありがとうございます。この新型コロナの中で、どう市民さんたちと接してやっていくのかというのは、本当にこれからの新しい時代に合ったやり方というのが求められていると思います。その中でも市民アンケートを取ったということでの市民の皆さんの認識、あるいはそうした思いというのは一定聴いているわけでありますから、ぜひそれを精査しながら丸谷議員候補はSNS等の活用については積極的にされてきたということも思っておりますので、LINE等で新たにそうした聴く窓口ですとか、そうした活用なんかも含めて、ぜひその点についてはどちらが議長さんなられても積極的にお願いしたいということをお願いして終わります。

○田立選考委員会委員長 他に質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○田立選考委員会委員長 ないようでありますので質疑を終わります。以上で泉大津市議会議長選挙に係る所信表明演説会を終了いたします。

(午前11時46分 閉会)